



江戸川クリーン大作戦



河川敷でのゴミの不法投棄

ゴミの不法投棄の実態

江戸川を管理する江戸川河川事務所では、現在、ゴミの不法投棄で悩まされている。平成20年度は、江戸川敷内などで管理する松戸出張所管内だけで年間ダンブカ120台分のゴミを回収。集められたゴミの内容はゴミ袋に詰められた家庭ゴミから、バイク、冷蔵庫などの大型のゴミまで実に多様。

年間1000万人以上もの人々が利用している江戸川と利根運河。本来、誰もがスポーツやレクリエーションなどで自由に使える憩いの場である河川だが、近年ではゴミの不法投棄や利用者同士のトラブルなどが多発し、利用者のモラル低下が問題となっている。河川を快適に保つために、国、地域、住民が今後どのような対策を取るべきなのか。現在の河川利用状況の報告と一般利用者代表による対談を交え、地域の共有財産である河川の未来を考えていきたい。

江戸川沿川でのゴミの不法投棄の実態と対策

みんなでつくる江戸川

地域住民に聞く

「河川利用者のモラル向上」の対策とは？

対談

実際に日頃川をよく利用するという千葉県サイクリング協会理事長の佐藤明弘さん、柏市在住の岡田聖紀さん、松戸市在住の谷中淳さんの3人に「河川利用者のモラル」についてお話を伺った。(以下、敬称略)

佐藤 僕は日頃、手賀沼付近で中心に、サイクリングしているのですが、川沿いを走っていると、「自転車、歩行者ともにモラルが悪い」というような声もよく聞かれます。モラルが悪いとは具体的にどういったことでしょうか。

岡田 それは私も思っています。先日、地元の大塚川付近で音楽を聴きながら歩いていたんですが、危うく自転車にひかれそうになりました。音楽を聴きながら歩いている人が悪いんですが、あれ以来、自転車に乗るの怖くなりました。

佐藤 たしかにマナーが悪いという声はよく聞かれます。利用者のモラル向上の対策としては、利用者の意識を高めることが重要だと思います。

谷中 実際、自転車利用者と歩行者がぶつかるケースは、河川事務所が苦情をいただく事案もあるようです。

佐藤 そういったトラブルって、単純なルールを徹底していただければいいんですが、なかなか難しいですね。例えば、自転車のベルを鳴らすようにお願いするとか、歩行者は歩道を歩くようにお願いするとか、そういう細かいルールを徹底していただければいいんですが、なかなか難しいですね。

岡田 マナーの徹底指導と啓発広報、インフラ整備、この2つを大きな課題として取り組むべきではないでしょうか。前者に関しては、サイクリング協会でも「初心者向けの自転車教室」を行うなどして、自転車利用者のマナー向上をはかっています。

佐藤 マナーの徹底指導と啓発広報、インフラ整備、この2つを大きな課題として取り組むべきではないでしょうか。前者に関しては、サイクリング協会でも「初心者向けの自転車教室」を行うなどして、自転車利用者のマナー向上をはかっています。

岡田 マナーの徹底指導と啓発広報、インフラ整備、この2つを大きな課題として取り組むべきではないでしょうか。前者に関しては、サイクリング協会でも「初心者向けの自転車教室」を行うなどして、自転車利用者のマナー向上をはかっています。

佐藤 マナーの徹底指導と啓発広報、インフラ整備、この2つを大きな課題として取り組むべきではないでしょうか。前者に関しては、サイクリング協会でも「初心者向けの自転車教室」を行うなどして、自転車利用者のマナー向上をはかっています。

すべての人にやさしい川づくりをめざして

江戸川河川事務所では、江戸川河川敷をより一層魅力的な場所として楽しんでもらうため、手すりのついたならだろなスロープや階段などを設置した「ユニバーサルデザイン」を、地域計画と連携して整備した。この坂道は子どもからお年寄り、障害者などすべての人が利用しやすいように設計されており、実際の利用者からも

「車いすの人がとても利用しやすいになったよ」「スロープができてから車利用が少なくなり、安心して川を利用できるようになった」と好評だ。こうした「河川空間を一層快適なものにしていく」という取り組みと、平行して求められるのが利用者側のモラルの向上。人々にとっても有益な河川空間をつくる

ためには、利用者側の意識を自発的に向上していくことが求められる。河川利用者のモラル向上をはかっています。

河川利用は散策や自転車などの交通手段以外で、レクリエーションなど余暇を過ごす場所としても利用されている。すべての河川利用者が河川利用の立場を思いやりとモラルを意識すれば、河川利用時のトラブルは軽減していくのではないだろうか。

河川利用は散策や自転車などの交通手段以外で、レクリエーションなど余暇を過ごす場所としても利用されている。すべての河川利用者が河川利用の立場を思いやりとモラルを意識すれば、河川利用時のトラブルは軽減していくのではないだろうか。

河川利用は散策や自転車などの交通手段以外で、レクリエーションなど余暇を過ごす場所としても利用されている。すべての河川利用者が河川利用の立場を思いやりとモラルを意識すれば、河川利用時のトラブルは軽減していくのではないだろうか。

河川利用は散策や自転車などの交通手段以外で、レクリエーションなど余暇を過ごす場所としても利用されている。すべての河川利用者が河川利用の立場を思いやりとモラルを意識すれば、河川利用時のトラブルは軽減していくのではないだろうか。

河川利用は散策や自転車などの交通手段以外で、レクリエーションなど余暇を過ごす場所としても利用されている。すべての河川利用者が河川利用の立場を思いやりとモラルを意識すれば、河川利用時のトラブルは軽減していくのではないだろうか。

千葉日报社では下記の意見募集をおこないます。

- 1 日頃、どのような機会に河川を利用しますか？ (例：散歩、スポーツなど)
- 2 これまで河川を利用した際に、気になったことなどがありましたら教えてください。
- 3 国や行政に「ここを直して欲しい」「こうした規制があればいい」など、河川利用者としての要望・提案がありましたら教えてください。

住所、氏名、電話番号をご記入の上、はがき、FAX、またはEメールにて下記までお送りください。(2月末日必着。)

〒104-0061 東京都中央区銀座4-10-12 銀座サマリアビル4F『千葉日報社2/21アンケート係』
FAX 03-3545-1450 Eメール tokyo@chibanippo.co.jp

急な河川増水による水難事故防止

近年、身近で自然豊かな河川を利用してレジャーを楽しむ人々が増加しているに伴い、河川における水難事故も多発傾向にある。「洪水や氾濫なんて、自分たちには縁遠い話」と思っている人も多いかもしれないが、ちょっとした雨でも河川が危険な場所になることもある。天気の良い日でも、上流部の雨が急激に流れ込み、水位や流速を上げてしまう。

川に出かける際には、テレビ、ラジオなどのメディアによる情報はもちろん、携帯電話やパソコンを利用し、日本気象協会や国土交通省のホームページなど、こまめにリアルタイムの情報を入手して、対策を講じてほしい。

川の防災情報

水位情報や洪水情報の入手は、国土省「川の防災情報」サイトで。
▶ www.river.go.jp/

携帯電話の「お気に入り」に登録しておくとう便利！

国土交通省ハザードマップポータルサイト
全国の市町村のハザードマップを見ることが出来ます。
▶ www1.gsi.go.jp/geowww/disapotal/index.html